

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 4クラス114名の幼児が在籍し、さまざまな遊びを友達と一緒に楽しんでいる。しかし、気の合う友達や先生など特定の人とのかかわりが多く、かかわりの幅が広がりにくい子どももいることから、25年度より、異年齢交流保育に取り組み、成果をあげている。支援を要する幼児も多数在籍する現状から、交流計画や取り組み方法を再構築する必要がある。
- さまざまな人とかかわりを、さらに広げていく取り組みを充実させる。
- 防災・安全教育の推進をさらに進め、子どもも大人も生命を守る意識の向上を図る。
- 体を動かす経験が、幼稚園内外で少なくなっている。自分で進んで体を動かし、楽しんで遊べる環境を整えていくことで、体力の向上、健康につながるよう充実させる。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育むために、発達段階や季節に応じた遊びを充実させる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年80%以上にする。
- 平成29年度～平成32年度の年度末保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は人間関係領域の研究に取り組み、昨年に引き続き、栽培教育活動や食育、安全教育、言葉の分野にも力を入れた。年度末アンケート結果では15項目すべてにおいて、高評価の割合が目標を上回ったり、達成できたりした。このことは、取り組んできたことが成果を上げ、保護者に評価された結果だと思われる。次年度も引き続き継続して取り組み、成果を積み上げたい。

また、今年度は災害が多く、園での取り組みを多くもったことが、保護者の高評価につながったと考えられる。園外の人々との交流活動に関しては、目標は達成できているが「あてはまる」と答えた割合が他項目よりも低く、今後も取り組みの工夫や保護者への子どもの育ちの周知をしていきたい。

大阪市立西野田幼稚園 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>幼稚園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策番号 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全に気をつけて行動する力をはぐくむ指導に取り組む。</p>	A
<p>指標：交通安全指導、防犯指導の年間計画を作成し、計画通りに実施する。</p> <p>避難訓練の年間計画を立て、実施する。</p> <p>年 3 回以上、地域や保護者と連携した安全に関する指導を行う。</p> <p>月 1 回、保護者と協力して登降園指導を行う。</p> <p>年 3 回、保護者に取組内容の情報を発信する。</p>	
<p>取組内容②【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>園児の交流活動を計画的に行い、様々な人々とかわる力をはぐくめるよう指導する。</p>	A
<p>指標：「なかよし集会」「なかよしタイム」「すくすくタイム」をそれぞれ月 1 回以上行う。</p>	
<p>取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>地域の人々や保護者と連携して教育をすすめる。</p>	A
<p>指標：学期に 1 回以上、地域の人々や小学生との交流活動を実施する。</p> <p>学期に 1 回以上、人権教育につながる親子の活動を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策番号 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>・交通安全指導、防犯指導の年間計画を作成し、計画通りに実施した。5 月に府警による交通安全教室を行い、実際に信号を見て横断歩道を渡る経験ができ、保護者向けの安全指導も行ったことで、交</p>	

通安全への意識が高まった。

- ・避難訓練の年間計画を立て、実施した。(内容は別紙添付資料①に記載) 毎回訓練前にクラス目標を決めて取り組み、事後に振り返りを行うことにより、災害への意識や次への課題を確認することができた。5月の避難訓練では、保護者にメールの配信を行い、メールの受信状況を把握した。6月の大阪北部地震において、全家庭に園からの緊急対応を知らせることができた。6月の避難訓練では、消防署の指導の下、職員による通報訓練・消火訓練を行った。子どもたちは消防車を見せてもらうなどし、火事や災害に対する意識が高まった。9月に大阪880万人訓練を計画していたが、前日の台風による被害が大きく、中止となった。災害を受け、9月末から10月に各クラスで区民センター4階まで避難する訓練を行い、安全に急いで階段を上ることを意識することができた。10月は不審者を想定した避難訓練を実施した。11月・2月は火災を想定した引き渡し訓練を実施し、引き渡しにかかる時間計測、メール配信の再度確認をした。預かり保育のお迎えの時にも引き渡しカードにサインをしてもらい、全員の保護者が少しでも参加できるよう工夫した。1月17日の阪神大震災のあった日に津波の避難訓練を実施し、津波の恐ろしさを伝え、避難訓練の大切さを知らせた。2月には教師にも予告のない避難訓練を実施し、いざという時にどれだけ動けるかを確認した。毎回反省会をし、命を守るためにどうすればよいか、課題を見つけ、避難経路の確保等改善につなげた。
- ・1学期始業式で、職員によるパペットを使った交通安全に関する指導を行った。2学期終業式には交通課の警察官より、子ども向け・保護者向けに話をしていただいた。安全な自転車の乗り方について話をしていただいたことで、子どもを自転車に乗せる際にヘルメットをかぶせる保護者が少し増えた。3学期の終業式では防犯課の警察官より誘拐予防について話をしていただく予定である。
- ・月1回、保護者と協力して登降園指導を行っている。毎回良かった点、気を付けてもらいたい点などを手紙にまとめて出すことで、保護者への啓発になっている。玄関ドアの施錠について手紙に載せ、掲示を工夫するなどし、防犯意識を高めた。
- ・学期末に安全に関する取り組みについて、写真を使った掲示物を作り、避難訓練などの様子を保護者に知らせた。
- ・年度末の保護者アンケートでは「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目での高評価の回答割合が100%であり、目標を達成しているので達成状況をAとした。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・なかよし集会(全園児での活動)、すくすくタイム(異年齢での活動)、なかよしタイム(同年齢での活動)はそれぞれ月1回以上実施できた。(内容は別紙添付資料②に記載)
- ・1学期の始めから、ペアクラスを決め異年齢での交流の機会を多くもった。身支度や発育測定の手伝いなどを通して関わる経験を積み重ねたことで、4歳児は5歳児の優しさを感じ、5歳児は頼られる嬉しさや思いやりの気持ちをもって接する姿が見られた。
- ・園外保育当日に向けては、事前に手をつないで歩くペアでふれあい遊びをしたり、一緒に体操をしたりすることで当日も安心して活動する姿が見られた。
- ・2学期は運動会に向けて、全園児でダンスをしたり、学年で競技をしたりしたことで、友達と体を動かして遊ぶ心地よさを味わった。運動会後からは異年齢のペアクラスを交代し、たくさんの友達と関わる経験を積み重ねた。今年は、たこあげも異年齢のペアクラスで実施したことでお互いにとってよい刺激となった。
- ・3学期は生活発表会にむけて、劇や合奏をクラス間で見合った。発表会後には、異年齢で劇遊び交流をし、5歳児の劇に4歳児も参加して一緒に楽しめる時間をもった。5歳児は一緒に楽しむことができたことで自信、4歳児は進級への期待をもつことができ、よい交流活動となった。
- ・クラスの活動だけでなく、異年齢、学年、様々な友達と関われるように意図的に時間や場所の設定をしてきたことで、自然と鬼ごっこやダンスなど戸外遊びでも自然と一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。

- ・年度末の保護者アンケートでは「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」という項目で高評価の回答割合は96%、「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で高評価の回答割合は97%であった。目標は達成しているので、達成状況をAとした。

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・6月19日には、福島区女性会のみなさんに盆踊りを教えていただき、夏祭り等地域行事への関心が高まった。
- ・7月11日には、吉野小学校6年生と5歳児がプール交流をし、小学校の施設を見たり、6年生に優しく世話をしてもらったり泳ぎを見せてもらったりした。2月19日には幼小交流会でランドセルを背負わせてもらったり、一緒に遊んだり、教室で少しだけ英語の授業を体験させてもらったりした。ランドセルの内容や、机など学校ならではの物に興味津々で、進学への期待が高まってきたようであった。
- ・10月22日・29日・11月1日には、野田中学校の3年生3クラスが1クラスずつ家庭科における保育実習を行った。いっしょに遊んだり、イモ掘りをしたり、歌を聞いてもらったり楽しく過ごすことができた。
- ・11月15日・16日には、下福島中学の2年生2名が職場体験を行った。交流を通し、優しく接してもらい喜びを感じることができた。
- ・毎月、隣接する江成公園の清掃を親子で行い、地域の施設をきれいに大切にしようとする気持ちを育てている。自分たちがいつも遊んでいる公園を、普段からきれいに使おうとする気持ちにつながっていくようだ。
- ・おひさま広場（未就園児の園庭開放）では、月に1回以上未就園の子どもが幼稚園に遊びに来て在園児と一緒に遊んだり、保護者同士も関わりを広げたりできるように実施した。未就園の子どもと園児と一緒に仲良し遊びをするなどの機会をつくり、地域のいろいろな友達とかかわれるようにした。11月16日には、幼稚園ウィークに合わせて人形劇をよび、在園児・未就園児クラスとともに、おひさま広場にきた子どもたちを招待して一緒に見た。5歳児は去年の経験があり、意欲的に受付や挨拶をしていた。兄妹関係を中心に、年下の友達に遊具を持ってきたり、案内したりする姿が見られた。4歳児はどのように関わればいいのかとまどう姿も見られたが、一緒に体操をすることなどを楽しむことができた。
- ・人権については保育室降園の時に取り組んだ。1学期には命を大切にすることを育むような絵本や図鑑を読み、読んだ後に感じた気持ちや、命あるものをどのように扱えばいいかについて話し合った。保育の中で飼育物を育て、命の大切さを感じられるような活動をしていることについて保護者にこまめに伝えた。子どもの具体的な姿を伝えていくことで、保護者も関心をもっていた。2学期3学期には、人の気持ちを考えられる内容の絵本を読み、「こんな時は友達はどんな気持ちだろう」「どういうふうに行動したら喜んでもらえるだろう」「自分の気持ちをどう伝えたらいいだろう」など具体的に保護者と一緒に考えられるようにした。みえない人の気持ちをおしはかるのは難しいことだが、丁寧に伝え、考える時間をもつことで、育てていることを、保護者に伝える機会にもなった。
- ・年度末保護者アンケートでは「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で高評価の回答割合は92%、「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」という項目で高評価の回答割合は97%、「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」という項目で高評価の回答割合は98%、「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」の項目での高評価の回答割合は96%であった。目標は達成しているので、達成状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・今後も地震が心配されるので、いろいろな状況を考え、避難訓練を実施したい。

・保護者の安全に対する意識を高めることも必要であり、方法を工夫する。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

・次年度も、クラス内、学年、異年齢の様々な友達と関われるように、子どもたちの実態に合わせた交流活動を計画的に行えるようにする。交流活動の中でどんな子どもの育ちにつなげたいかを意識しながら保育に取り組んでいきたい。

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・他校種や地域の方と交流する際には、事前に打合せをし、よりよい育ちにつながるようにしていくと同時に、保護者に内容や育ちについて丁寧に伝えていくようにしたい。
- ・引き続き公園清掃や、おひさま広場など計画的に行い、公共の場を大切にしたり、いろいろな人と関わったりできるようにしていきたい。
- ・自分の気持ちや、相手の気持ち、命の大切さなど、日々の保育の中でふれながらも、改めて振り返る機会をもつことで、人の気持ちや命を大切にしようとする気持ちを育んでいきたい。

大阪市立西野田幼稚園 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p><u>幼稚園の年度目標</u></p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>子どもの発達段階や季節に応じた遊びの内容や指導法を工夫する。</p>	A
<p>指標：年1回指導要請による研究保育を実施する。</p> <p>年10回園内研究会を行い、方法を工夫する。</p>	
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>家庭でも健康や体を動かすふれあい遊びに興味をもてるよう、保護者への啓発を行う。</p>	A

指標：毎月の園だよりに、体を動かすふれあい遊びを掲載する。 年間5回、保育室降園を活用して、保護者と子どものふれあい遊びをする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 栽培活動を通して、野菜の生長に関心をもてるような活動を工夫する。	A
指標：「西野田SUNサンファーム」、園内の自然環境の充実を図り、夏野菜や冬野菜の栽培活動に取り組む。	
取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 基本的な生活習慣が身につくように指導の工夫をする。	A
指標 基本的な生活習慣（食育を含む）に関する保健指導を毎月1回、実施する。	
取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 発達段階や興味関心に応じて、言葉に関するいろいろな体験や遊びをする。	A
指標：年3回以上講師による絵本の読み語りを実施する。 年3回以上、英語など外国語に親しむ活動を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に指導要請による研究保育を実施した。指導案作成に向け、職員全員で繰り返し、発達段階や季節に応じた遊びの内容、子どもたちの育ちについて話し合い、共通理解や保育について相談し合うことができた。指導助言や反省会を通して、保育を振り返ったり、意見を交換したりし、保育力向上につながった。 ・園内研究会を5月7月9月10月11月12月1月2月に行った。他教諭と保育を見合い、反省会をもつことで、就学前教育カリキュラムに照らし合わせたねらいの立て方や、子どもの実態に応じた展開の考え方、子ども一人一人の思いを受け止め実現できるような言葉かけの大切さなどについて学ぶことができた。11月の園内研究会では、ワールドカフェ形式で反省会を行い、協議を深めた。3学期には生活発表会に向けた取り組みを教師間で見合うようにし、気付いた点や良かったところ、工夫できるところを伝え合った。 ・年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で高評価の回答割合が98%であった。目標を達成しているので達成状況をAとした。 <p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の園だよりに、体を動かしながら楽しむふれあい遊びを掲載し、保護者への積極的な啓発を行った。掲載する遊びの内容は、互いの足をくっつけて左右交互に押し合ったり、向かい合ってふれあいを深めたりするような遊びなど、体を親子で動かしながらスキンシップを図ることのできる遊ぶことができるものを精選し、保護者へ啓発した。また、掲載するだけではなく月末の保育室降園の際に、保護者の方と一緒にその月に掲載した遊びを取り組むことにより関心が高まり、家庭でのふれあいのきっかけにもなっている様子が見られた。 ・保護者とゆっくり向き合って遊ぶ機会を設けることにより、子どもたちも嬉しそうな表情を見せていた。また、事前に子ども同士で遊んでいたふれあい遊びの時には、子どもたちが保護者に一生懸命遊びを教えようとしていた。 ・園だよりに掲載した遊び以外にも、ふれあいながら体を動かすことができる遊びを、保育参観や誕生会で一緒に遊んだことにより、遊びへの関心を高めてもらう機会になった。 ・年度末の保護者アンケートでは「年度当初より、身体を動かす遊びが好きになりましたか」という項目で高評価の回答割合は100%であった。目標は達成しているため、達成状況をAとした。 	

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・西野田SUNサンファームでの活動、栽培計画を立てて取り組んだ。4月に土起こしをし、5月にサツマイモの苗植えを全園児で行った。保護者の手伝いもあり、サツマイモの苗の形、他の野菜との植え方の違いなどに気付きながら苗を植えることができた。その他、PTA、事業担当主事を中心に充実を図ることができた。トマト、ピーマン、ナス、ゴーヤ、キュウリ、オクラ、ズッキーニ、カボチャ、インゲン豆、枝豆を植えた。月に1回以上各クラスで野菜の生長を見に行ったり、虫を探しに行ったりと畑に親しめるようにし、植物の葉っぱの大きさや茎の高さ、触り心地の違いなどに面白さを感じながら遊ぶ姿があった。ビワの木からビワを獲り、みんなで分けたり、できた野菜をクラスで順番に持って帰ったりし、「こんなふうにできるんだ」と保護者と一緒に感動したり喜んだりする姿があった。
- ・園庭の畑にはトウモロコシを種から植え、芽が出て少しずつ大きくなっていく過程を喜んでいた。間引きの際に4歳児が「年長さんが植えたトウモロコシの赤ちゃん（ヤングコーン）」と嬉しそうに1人1本持って帰り、5歳児は背丈よりも大きくなったトウモロコシの収穫をして1人1本持って帰ることができた。種から植えた野菜の生長を喜びながら味わったようだった。
- ・各自の鉢で保護者と一緒に夏野菜を植え、一緒に育てる機会をもった。水やりをはじめ、支柱を立てたり肥料をやったり、わかりやすく楽しみながら一緒に世話ができるよう掲示物を工夫した。さらに、養護教諭が『やさいカード』を用意し、各家庭で収穫物を家庭に持ち帰って食べた様子を『やさいカード』で知らせてもらった。今年度は、集まったすべての『やさいカード』をその都度、掲示していった。『やさいカード』に書かれている野菜の調理方法を参考にしている保護者の姿が見られた。その姿を受け、保健指導の食育指導につなげた。
- ・5歳児は自分たちで植えた夏野菜を見ながら絵をかき機会をもち、花の色や葉の形、感触などの細かい変化や特徴に関心をもつようになってきた。
- ・10月29日にはPTAにも協力してもらい、全園児と未就園児とがイモ掘りをした。区長にも来てもらい、たくさんのイモを収穫することができ、収穫の喜びを感じることができた。
12月7日においもパーティーを実施し、実際に自分たちで掘ったイモを洗い、PTAの方達が蒸し器で蒸している様子を見たりと、食べるまでの過程やお家の人と一緒に食べることを楽しんだ。
- ・個人の植木鉢では、年長児が小松菜、水菜、ほうれん草を育てた。水やりをする習慣も身につけ、保護者からは自主的に『やさいカード』を提出されることが増えた。子どもだけでなく、保護者にも栽培活動への意識が高まったように感じる。
- ・1学期の保護者アンケートでは、「年度当初より、栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり関心をもったりするようになった」という項目で高評価の回答割合は99%であった。目標を達成しているので、達成状況をAとした。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・毎月1回保健指導を実施する。(5月：手洗い・うがい 6月：歯みがき 7月：洗顔 9月：早寝早起き 10月：目の健康 11月：歯の健康 12月：早寝早起き 1月：姿勢 2月：食育 3月：体の成長)
- ・『けんこうなせいかつカレンダー』を作成し、取り組んだ。(6月：歯みがき 7月：朝の洗顔 夏休み：早寝早起き朝ごはん 11月：朝の生活 12月手洗い・うがい 冬休み：朝の生活と野菜 3月：弁当後の歯みがき) 色塗りやシールという目に見える達成感を目標にして「家でもがんばっている」姿が見られた。短期間での取組であるが、歯みがきや洗顔の習慣化に役立てている家庭もあった。取り組むことが難しい家庭も見られたので、3月のカレンダーは、園だけで取り組めるものにした。また、歯の様子(永久歯、乳歯の数)を知らせ、自分で色塗りしたことで、歯に対する関心は高まり、歯みがきへとつなげることができた。

- ・10月に『基本的な生活習慣に関するアンケート』を実施した。家庭での子どもの生活の実態が把握できたので、子どもへの指導や支援に活用したり、アンケート結果を保護者に知らせ啓発したりすることができた。
- ・年度末の保護者アンケートでは「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」という項目で高評価の回答割合は99%、「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」という項目で高評価の回答割合は98%、「年度当初より食べ物に関心をもつようになった」という項目で高評価の回答割合は95%、「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で高評価の回答割合は94%であった。目標は達しているので、達成状況をAとした。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・各クラスで子どもの興味関心や、行事、季節に応じた絵本や紙芝居など取り入れ、いろいろなお話に興味をもてるように取り組んできた。さらに、5月と12月に福島図書館のボランティアの方に大型絵本や腹話術などしていただいたり、6月と12月、2月には講師によるお話の会をしていただいたりして、絵本やお話への関心がさらに高まった。
- ・年間で5回、講師に「英語で遊ぼう」をしていただき、一緒に歌ったり体を動かしたりしながら英語の挨拶や歌、簡単なやりとりを楽しむことができた。
- ・ペルー、中国にルーツをもつ子どもが入園したことにより、スペイン語や中国語に関心を持ち、お互い簡単な言葉のやりとりをしたり、掲示してある言葉や地図、外国語の絵本に興味をもったりする姿も見られた。中国にルーツをもつ保護者の方の協力を得て、7月11月3月には、「中国語であそぼう」として、中国語の絵本や手遊びなどをしてもらった。中国の文化や言葉にふれる機会をつくったことで、関心をより高めることができた。10月にマレーシアからのお客さんに食べ物や言葉などの文化を教えてもらう機会ももうけることができた。
- ・年度末保護者アンケートでは「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で高評価の回答割合は99%であった。目標は達成しているので、達成状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

- ・ビデオ研修も取り組んだが、機器が上手く動かなかった。時間の確保の工夫も含め、園内研の方法をさらに工夫していく。
- ・保育観や子どもの姿について共通理解を深め、援助していきたい。
- ・就学前教育カリキュラムについて理解を深め、保育に活かしていく。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・保育室降園の日であっても、迎えに遅れて来られる方や預かり保育を利用している方も多いため、そのような家庭の子どもたちや保護者への啓発やふれあいの機会をどのように促していくのが課題である。
- ・園だよりに掲載する遊びの内容を年度当初に検討し、身体を動かして遊ぶことへの関心を高めたり、ふれあいの機会の充実を図ったりできるような内容を深められるようにする。
- ・子どもの遊びの様子の変移に応じて、各月に取り組む遊びの内容を工夫していく。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・1学期後半の暑さなど、なかなか畑に行けなこともあったが、今後も畑を定期的に見に行ったり世話をしたりし、自然への関心をさらに深めていきたい。
- ・冬から春にかけての野菜の準備など計画的にすすめ、季節の野菜の生長・収穫を体験できるようにしていきたい。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・毎月のがんばりが子どもたちにも分かるように、カレンダーを冊子状にしたが、家でなくしてしまうことも多くあったので、来年度は継続して取り組めるようなカレンダーの形式を考える。

- ・『基本的な生活習慣に関するアンケート』の結果から分かった課題について、来年度も引き続き子どもへの指導、支援をしていき、保護者への働きかけを考えていく。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・次年度も子どもの興味や生活に応じた内容の絵本を吟味し、読み聞かせをしたり、いろいろな方からお話を聞く機会を設け、お話の楽しさ面白さを感じられるようにする。
- ・次年度も保護者の協力も得て、さまざまな国の文化や言葉にふれる機会をつくりたい。

1. 総括についての評価

平成30年度については、年3回の幼稚園評価保護者アンケートを含んだ学期ごとの教育活動の保護者アンケートを実施した。「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が15項目中すべての項目で92%以上であった。

この保護者アンケート結果から学校運営に関する計画に基づき教育活動を進めてきたことが、子どもたちの様々な育ちや取り組みに対する評価とみなすことができると思われる。

中間目標の達成に向けたそれぞれの年度目標について、【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】【心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上】のすべての項目において数値目標を達成することができた。

このことから、自己評価結果は概ね妥当である。

2. 年度目標ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

○今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を85%以上にする。

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してほぼ妥当である。

年度目標では、年度末保護者アンケート結果において7項目すべての項目において、数値目標を達成することができた。「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」について年度末結果が100%となり、今年度は災害が多く、年度当初の予定を上回って活動したことが評価されたと考えられる。「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味を持つようになった」については目標は達成しているが、最高評価が他の項目よりも低くなった。学年により取組の機会に差があったことや、園内のふれあい活動に比べて保護者が実感を持ちにくかったことが考えられる。引き続き継続して取り組み、子どもたちの命を守るための安全に関する意識を高め、幼稚園生活のあらゆる体験や経験を通じて人とかわる力の育成をさらに育てていきたい。保護者が人権に対して考える機会も取組の工夫をし、意識や関心を高めていけるようにしたい。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多かった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

○保護者アンケート結果と自己評価分析を総合的に判断したところ、達成状況の評価に関してはほぼ妥当である。

年度目標では、保護者アンケート結果において8項目中すべてにおいて、数値目標を達成することができた。「年度当初より、身体を動かす遊びが好きになりましたか。」については年度末結果が100%となり、昨年度まで2年間研究に取り組んだ身体を動かす遊びの活動を引き続き積み重ねることができたと考えられる。昨年度から取り組んでいる“西野田SUNサンファーム”での栽培活動は保護者も巻き込み、自然に触れ、季節を感じ、食への関心を高める機会となっている。本園の特色として継続して取り組んでいきたい。今後も就学前教育カリキュラムを基にした子どもの発達段階に応じた指導法の工夫、様々な人との関わりを豊かにする取組、言葉に関する体験の工夫などをしていく。基本的な生活習慣や食育に関しては、家庭との連携が欠かせないので、取組内容を今後も工夫していく。

3. 今後の学校運営についての意見

- すべての年度目標達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標において、達成状況がAとなっており、園の取組を保護者が高く評価していることが分かる。次年度以降も就学前教育カリキュラムを基に保育をすすめ、目標を立て取組んでほしい。
- 裏庭を活用しての栽培活動は、土に触れる経験ができるだけでなく、保護者を巻き込んだ食育にもつながっており、今後も続けてほしい。
- 接続校との交流はイベント的なものだけでなく、小学校にとっても幼稚園にとっても良いものと考えていきたい。
- 就学時に子どもがギャップを感じないように、小学校の先生が幼稚園を知る、幼稚園の先生が小学校を知るという機会も作ってほしい。